

J-1480X ジェットランチャー2輪

このたびはジェットランチャーをお買い上げいただきありがとうございます。
組み立てる前に下記を良く読んで組立をしてください。

箱に入っているパーツを確認します。

パーツ表

番号	品番	品名	数量	
1	JL100	ランチングフック ステンレス製	2	
2	JL103LBX	2.8t曲取手480幅Jランチャー、X品	1	
3-1	JL103AXR	メインフレームセット1300X/1480X (3-A～E付き)右	1	黒エンドキャップ 側から見て左右
3-2	JL103AXL	メインフレームセット1300X/1480X (3-A～E付き)左	1	
3-A	JL210BS	すべるレール 1.5M ライトブルー	2	3番に組みま れています。
3-B	Z6038	エンドキャップ50x70	2	
3-C	JL106	補強バー(リベット付)	4	
3-E	IB030020AA	楕円70x50ブラケットストレート連結固定20mm (旧品番JL108S)	4	
3-F	Z6037	プラスチックスレ止 (ボルトM6-65,M6-70,ナット付)	2	
4	JL112S	左右連結パイプ J-1480用 409mm	2	
5	JL124-1	スタンドパイプJ-1480X用(レール付)	1	
5-G	Z6032-1	スタンドレール J-1300X/1480X用(穴無し)	1	5番に組みま れています。
6	JL122	車軸フレーム J-1480、J-1480-4用	1	組みま れています。
7	Z507	BY-100/200/1480-4 車軸シャフト用カラー	2	
8	JL123	車軸シャフト J-1480、J-1480-4用	1	
9	IB020050AA	楕円70x50ブラケットJ車軸50mm (旧品番JL121)	4	
10	TA40F	Fタイヤ ヘアリング18x9.50-8新キャップ	2	
11	Z521	ドリリング	2	
12	P04-6-70	SUS六角ボルト6-70	2	
13	P04-6-65	SUS六角ボルト6-65	16	
14	P04-6-55	SUS六角ボルト6-55	2	車軸に組みま れています。
15	P23-06	SUSフランジナットセレート付 M6	2	
15	P23-06	SUSフランジナットセレート付 M6	18	
16	JL405	ランチャー&J-2000用ロープ8φx1.2M	1	



コチラのQRコードより
弊社通信販売にて
交換部品販売しております。

- 組立をする前に完成写真と組立図をよく見て、全体のイメージを頭の中で作ってください。
各ネジ類を締める際は潤滑剤等を塗付して締めるようにしてください。

■使用上の注意(別紙取扱注意事項を必ず参照ください)

- ジェット以外は載せないでください、破損の原因になります。
- ジェットランチャーを使用する前に必ずネジ、ボルト類の点検、締め直しをしてください、緩んだまま使用しますとフレーム等破損の原因になります。
- 悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください、無理をしますとフレーム等破損の原因になります。
- 輸送時は必ずランチングフックを艇にかけてください。
- 定期的にジェットランチャーの各部が磨耗していないか等を確認して、磨耗していた時はすみやかに部品を交換してください。

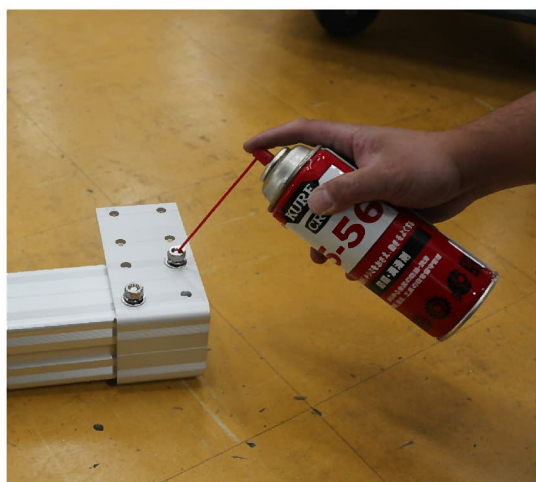
<<ボルトの締め付け、取扱い注意>>

ステンレスのボルトやナットをインパクトレンチなどで急激に締め付けるとネジの嵌め合い部で摩擦による熱が発生し、その熱によってネジ部が膨張し、オネジとメネジが密着し焼付きを起こし動かなくなることがあります。そのまま締め付けていくとボルトが折れることもありますのでご注意ください。
また必ず潤滑剤を塗布してから締め付けをしてください。

ナイロンナットにはすでにオイル等を塗布してパックされていますが、地面に落としたり、砂埃で砂が付着した際はきれいにしてから再塗布をし締め付けをしてください。

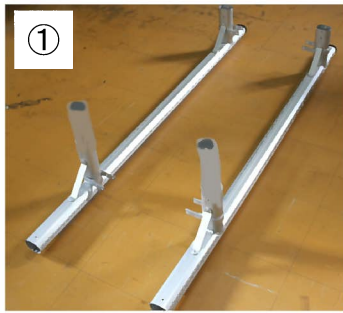


急激な 締め付け注意！



潤滑剤を塗布してください。

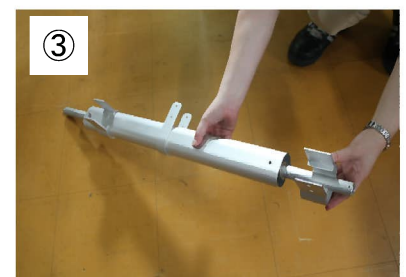




③-1、③-2、メインフレームセットの青いレール部を下にし
楕円70x507°ラケットが内側の向きに
写真のように位置します。



楕円70x507°ラケットに④左右連結パイプを取り付けます（前後ともに）

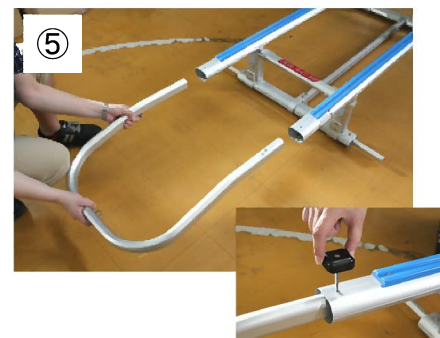


⑥⑦⑧車軸フレームの片側のボルトを外し
⑨楕円70 x 507°ラケット
⑤-A楕円ブラケットストレート連結固定30mm
⑨楕円70 x 507°ラケット
の順に通します。
（前後ともに）



⑥⑦⑧車軸フレームに付いている
⑨番楕円70 x 507°ラケットと
メインフレームの立ち上がりフレームを
ボルトにて固定します。

反対側は⑤スタントパイプを取り付けます。



組み立てたフレームを裏表ひっくり返し
メインフレームのパイプに②曲取手を差し込み
レール側の面に③-Fプラスチック止めを置き
六角ボルト6-70とフランジナットで固定します。
注）写真は4輪ジェットランチャーのを使用してます。

注）手順②の左右連結パイプは船底に
当たらないよう一番下に下げてください。



①ランシングフックに⑩ロープを結び
反対側を②曲取手の中央にあるロープガイドに
ロープを通し②曲取手に巻きつけて結びます。
※ロープガイドに直接結ばないでください、破損します。



最後にタイヤを⑧車軸シャフトの丸棒に差込み
⑪リングを⑧車軸シャフトの穴に差して完成です。

取扱上の注意事項

ご使用前に必ず熟読しお守りください！ 取扱説明書、パーツ表等は大切に保管してください。



●段差のきつい所での走行や内輪差による後輪の衝突などに注意してください、破損の原因になります。



●坂道では十分に減速し走行してください、急な動作で艇がズれる場合がありますので注意してください。



●取っ手部での艇による手の巻きこみに注意してください。



●ジェットを水に降ろすとき、ジェットランチャーがタイヤの浮力の反動で飛び出てくる恐れがありますので注意して下さい。



●ジェットの上に人を乗せての走行は危険ですのでおやめください。



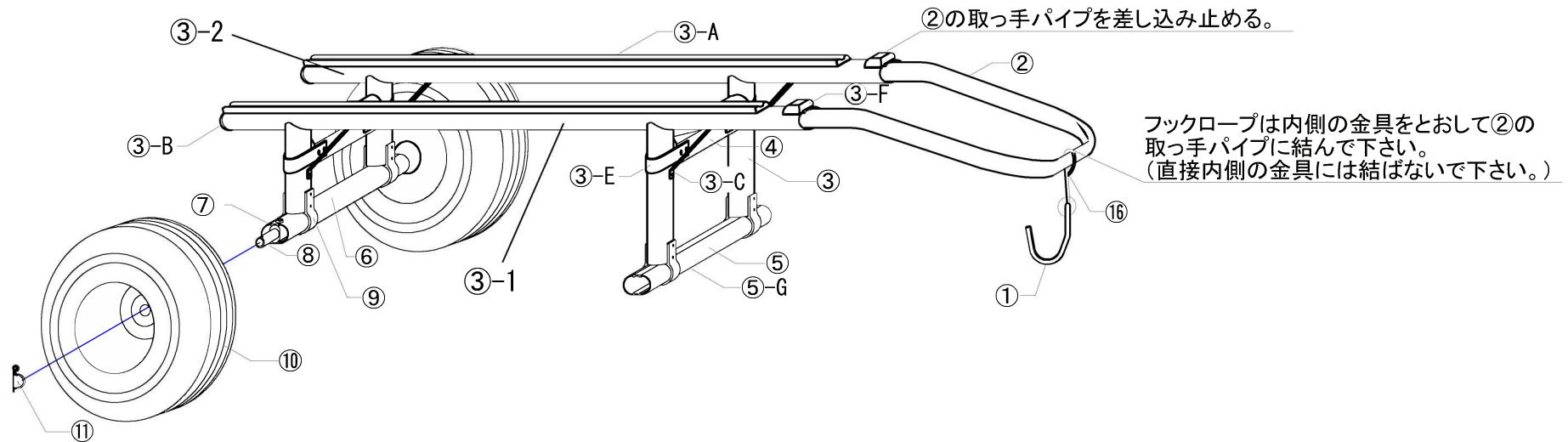
●タイヤを車内に入れる際は0.5kgに減圧して下さい。(別途タイヤ取扱説明書を参照して下さい。)

- ご使用前には必ずボルトやネジ、リベット等のゆるみがないか確認してください。ゆるんだまま使用しますと事故、破損の原因になります。
- ジェットランチャーをご使用の際は必ず複数人にて行ってください。
- 輸送時は必ずランニングフックを艇にかけてください。
- 各ジェットランチャーの適応PWC以外は絶対に乗せないでください。破損の原因になります。
- 動力等での無理な牽引は絶対におやめください。バギーでの牽引の場合は別途オプションにて JL268 カプラーキットがございます。
- 悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください。無理をしますとフレーム等破損の原因になります。
- 水が浸入した艇は予想以上に重量が増えていますので必ず排水してから乗せてください。
- 定期的にジェットランチャーの各部が磨耗していないか等を確認して、磨耗していた時はすみやかに部品を交換してください。そのまま使用しますと事故、破損等の原因になります。
- すり減ったレールでのご使用はリベット等で船体が傷つく恐れがあります。必要に応じて交換してください。
- 艇によってはレール幅が合わずライドプレート等でフレームに傷がつく恐れがあります。
- ジェットランチャー使用時、使い方によっては艇に傷がつく恐れがありますのでご注意ください。
- 長期にて保管される場合はタイヤの空気圧等を定期的にチェックしてください。
- 素手足で不用意にパイプのカット部等触れますとケガの原因となります。必ずグローブ&ブーツを着用の上ご使用下さい。
- 高い位置からの 乗せ移し(トラック荷台等)は危険です。またランチャーの破損の原因になります。
- その日の気象状況を十分に確認し、波風が強い日はご使用をおやめください。状況によっては乗せ上げの際、艇に傷がつく恐れがあります。
- 荒れた海面でのご使用はジェットランチャーが暴れますので十分にご注意ください。
- 万が一誤った組立て、もしくは使用方法でのトラブルには応じかねますのであらかじめご了承ください。
- 不明な点、その他お問い合わせありましたら、お買い求めの販売店までご連絡ください。

JET LAUNCHER J-1480X

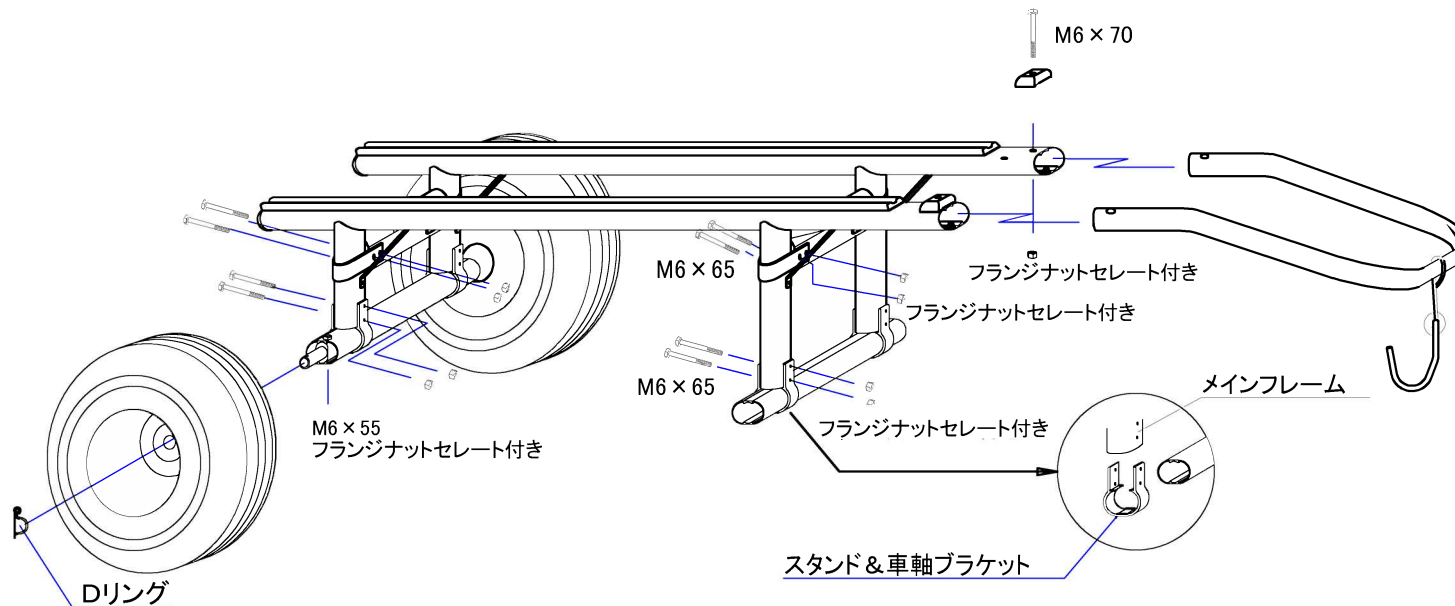
注意

図及び説明文を良く読み組立をしてください。
ボルトは手で締める程度にし、全体の組立終了後、締め付けをしてください。



△ タイヤの回転が悪くなりましたら、タイヤを外し
ベアリング部を水洗いしてください。

※ 車軸部(ベアリング)には、油、グリース等は絶対に
付けないで下さい。(油に砂が付着します。)



タイヤご使用上の注意

このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
弊社のエアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

TA40F/TA40G/TA40J（ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用）

- チュープレスタイヤですのでチューブは入っておりません。
- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。特に夏場は直射日光で内圧が高まりますので必ず数値内でご使用下さい。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が低下するとタイヤの内圧が下がり、チュープレスタイヤなので空気が抜けてしまう場合が有ります。船を載せて保管される場合は時々空気圧のチェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置すると、ヒビ割れして空気の再注入が不可能となってしまいます。長期保管の場合には、台車の下にブロック等を入れておく事をお勧めします。
- エアー漏れでも早期に対処していただければ十分再生します。時々点検していただくようお願い致します。

TA40A(アルミランチャー、トランサムドーリー等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。
- 交換用タイヤ(外側)とチューブは別途販売しています。適宜交換下さい。

TA30D(サーフ系ランチャー、Z071 前輪等に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0kg～1.5kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。

上記全てのタイヤについて

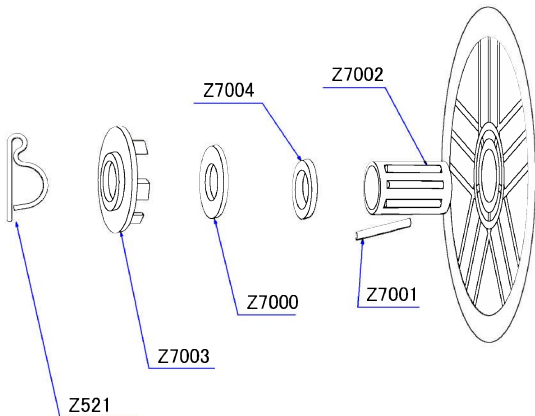
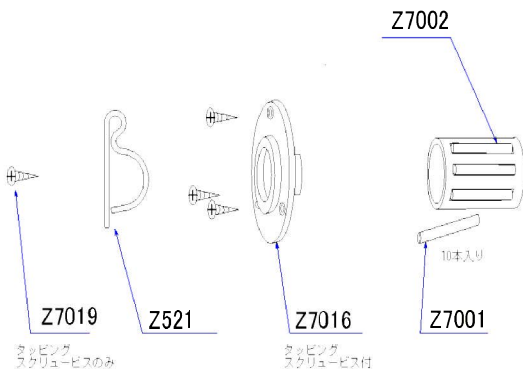
- 車軸部にベアリングが内蔵してあります。ベアリング部にはグリス等を塗布しないようにして下さい。砂、埃、が付着して磨耗の原因となります。ベアリング部は良く水洗いしてください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気は、ガソリンスタンド等に置いてある自動車、バイク用の空気入れで入れられます。一般自転車用の空気入れではバルブ形状が合いません。詳しくはHPご覧ください。

空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1

2018年よりTA40系のベアリングが変更になりました。

下記、相違表をご確認ください。

	旧	新
	2017年まで	2018年から
品番	TA30系	TA40系
キャップ色	ブラック	グレー
固定方法	打ち込み式	ビス止め式
キャップ		 ※適宜ゆるんでないか確認してください。
リム形状	  打ち込み式の形状です	※穴は2つ並んであります ビスが締め切らなくなりましたら 隣の穴をご使用ください。   ビス用の穴があります
部品図		 Z7019 ※ Phillips スクリュービスのみ Z521 Z7016 ※ Phillips スクリュービス付 Z7002 10本入り Z7001
	部品図のZ7003は TA40系には使用できません	部品図のZ7016は TA30系には使用できません